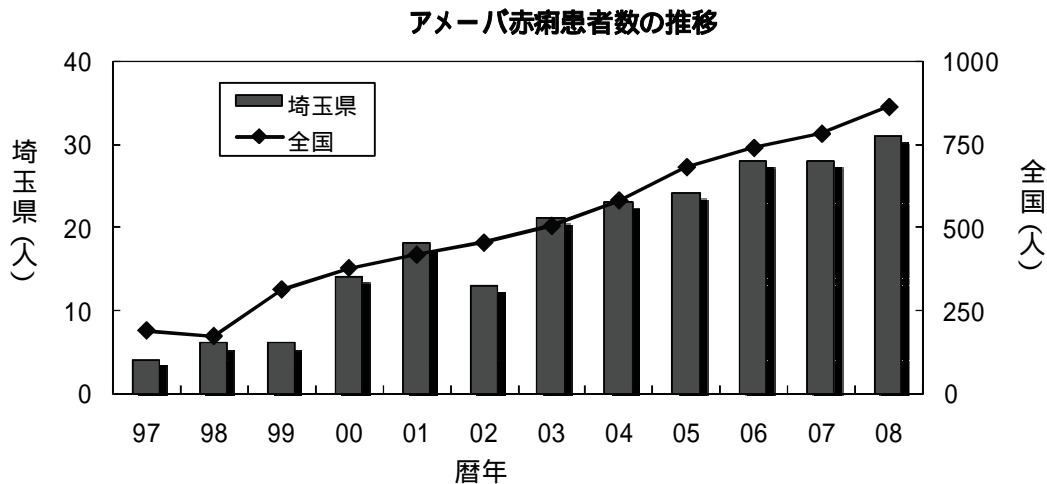


アメーバ赤痢

アメーバ赤痢の原因である赤痢アメーバ *Entamoeba histolytica* という原虫は、腸管内の生活環境によって栄養型とシストに形態を変化させます。運動性がある組織に侵入し、増殖するのが栄養型です。一方、腸管内の生活環境が悪化すると、原虫は強固な壁を形成しシストに変化します。このシストは感染性があるうえに、外界でも抵抗性が強く、水中であれば1～2か月間生存できます。その症状は、原虫が大腸組織内に侵入して増殖し、潰瘍形成により赤痢症状を示したり、原虫が大腸壁から血行性に肝、肺、脳などに移行して増殖し、膿瘍を形成します。アメーバ赤痢の30～40%に肝膿瘍が見られますが、その半数は腸管症状を伴っていないと言われています。

アメーバ赤痢は、主に熱帯及び温帯地域に広く感染者が存在します。我が国では輸入感染例だけでなく、主として男性同性愛者間において国内感染例が多く見られます。埼玉県内及び全国における本症の患者届け出数の推移を、グラフに示しました。県内および全国とも、2000年から増加傾向が見られます。



アメーバ赤痢の検査は、便や病変部からの病原体の検出や血清による抗体価測定が行われます。顕微鏡下で病原体を検出する場合、栄養型は死滅しやすいため、検体採取後1～2時間以内に検査します。固形便や軟便ではシストが見られる事が多く、冷蔵であれば数日間は安定して保存できます。

糞便検査では、1回の検査に留めず、連続3日間程度の集中検査をおこなうことで、検出精度を高めることができます。

今後とも、感染症が発生した際の原因究明調査等へのご協力をお願いします。